

## 令和 4 年度放射線安全規制研究戦略的推進事業に係る 事後評価の進め方について

令和 4 年 7 月 1 1 日  
研究評価委員会

放射線安全規制研究推進事業に採択された研究課題及び放射線防護研究ネットワーク形成推進事業に採択されたネットワーク事業については、「採択課題の評価について」（参考資料 2）に基づき、年次評価に加えて事後評価を受けることとされており、事後評価については、事業の終了後に、実績報告書を踏まえて、研究評価委員会が実施することとなっている。

令和 4 年度に実施する事後評価は以下の通り行うこととする。

### 1. 評価対象課題

令和 3 年度末に事業が終了した 9 課題を対象とする（表 1）。

表 1 事後評価対象課題

	プロジェクト名	研究期間	研究代表者名 (研究機関)
1	健全な放射線防護実現のためのアイソトープ総合センターをベースとした放射線教育と安全管理ネットワーク	平成 29 年度 ～令和 3 年度	渡部 浩司 (東北大学)
2	放射線防護研究分野における課題解決型ネットワークとアンブレラ型統合プラットフォームの形成	平成 29 年度 ～令和 3 年度	神田 玲子 (量子科学技術研究開発機構)
3	染色体線量評価のための AI 自動画像判定アルゴリズム(基本モデル)の開発	令和 2 年度 ～令和 3 年度	敷藤 由美子 (量子科学技術研究開発機構)
4	福島原発事故の経緯に基づく防護措置に伴う社会弱者の健康影響と放射線リスクの比較検討に関する研究	令和 2 年度 ～令和 3 年度	坪倉 正治 (福島医科大学)
5	ICRP2007 年勧告等を踏まえた遮蔽安全評価法の適切な見直しに関する研究	令和 2 年度 ～令和 3 年度	平尾 好弘 (海上・港湾・航空技術研究所)
6	看護職を活用した住民に対する放射線リスクマネジメントの推進－原子力災害支援保健チーム(NuHAT)の実現を目指して－	令和 3 年度	明石 眞言 (東京医療保健大学)
7	自然起源放射性物質 NORM による被ばくの包括的調査	令和 3 年度	岩岡 和輝 (量子科学技術研究開発機構)
8	水中の放射性ストロンチウムの安全、迅速、安価な分析法の開発	令和 3 年度	箕輪 はるか (東京慈恵会医科大学)
9	環境放射線モニタリングに適した半導体受光素子ベースの検出器の開発	令和 3 年度	谷垣 実 (京都大学)

## 2. 評価の進め方

令和3年度末時点で更新した研究成果報告会用資料（各研究代表者にて作成）及び成果報告書を事前に研究評価委員に送付する。評価委員は内容を確認し、書面にて暫定的な評価を行う。研究成果等に関する質問等に対しては、必要に応じて研究代表者に問い合わせるなど、事務局で対応する。

研究評価委員会を開催し、対象課題について「放射線安全規制研究戦略的推進事業評価基準（事後評価）」（「採択課題の評価について」（令和元年6月26日研究評価委員会）表2。参考資料2）に基づき、①研究目標の達成度、②事業における研究成果・特許、③放射線規制及び放射線防護分野への貢献度、④研究コスト及び費用対効果の評価項目について、ABCDによる評価を実施し、総合評価を決定する。

令和4年度の事後評価に係る研究評価委員会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のためWeb会議形式による開催とする。なお、研究評価委員会は公開とする。

（参考：事後評価のスケジュール）

5月下旬	成果報告書等を評価委員へ送付
7月11日	令和4年度第1回研究評価委員会（事後評価）